



平成 30 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(コード番号：8705)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 増 田 潤 治
電 話 03-5543-8705

平成 30 年 3 月期第 3 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
前年同期実績 (平成 29 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (A)	1,932	△736	△719	△762
当期実績見込み (平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (B)	2,106	△96	△61	△63
増 減 額 (B - A)	174	640	658	699
増 減 率 (%)	9.0	—	—	—
(ご参考) 平成 29 年 3 月期実績	2,840	△698	△678	△858

(注) 前連結会計年度より、表示方法の変更を行っております。前年同期実績につきましては、当該表示方法の変更を反映した組替後の数値を記載しております。

2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間における商品市況は、貴金属は 7 月までは材料不足から方向感に乏しい展開が続きましたが、7 月から 9 月にかけて北朝鮮を巡る地政学的リスクが高まったことから上昇しました。その後、地政学的リスクの後退から 12 月中旬までは下落しましたが、年末にかけてドル安を背景に大きく上昇し、金は高値で終了しました。原油は 6 月にかけて米国やロシアの増産を背景に下落基調となりましたが、その後、OPEC が主導する協調減産により堅調な推移となり、高値で終了しました。これらの背景から、全国市場売買高は 36,847 千枚（前年同期比 93.5%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料につきましては、1,191 百万円（前年同期比 73.9%）となりました。また、売買損益につきましては、ゴム市場におけるディーリングが好調に推移し、80 百万円の利益となりました。このほか、外債販売が増加したこともあり、有価証券関連事業における売買損益で 614 百万円の利益（前年同期比 552.0%）を計上しております。

この結果、営業収益は 2,106 百万円（前年同期比 109.0%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、2,202 百万円（前年同期比 82.5%）となる見込みであります。これらにより、営業損失は 96 百万円となり、経常損失は 61 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は 63 百万円をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上